

Sapporo Medical University Scholarly Communication Center

札幌医科大学附属総合情報センター

— 図書館員から見た組織統合の系譜と課題 —

札幌医科大学附属総合情報センター

情報システム係 今野 穂

E-mail: konno@sapmed.ac.jp

HP <http://infonavi.sapmed.ac.jp/jpn/>

本日のお話の概要

- 札幌医科大学の概要
 - 附属総合情報センターの設立までの歩み
 - 目的と機能
 - 組織機構
 - 図書館員として統合に期待したものの
 - 統合の意義と課題
-

札幌医科大学の概要

- 1945年設立の北海道立女子医学専門学校を前身とし、1950年に開学
- 医学部、保健医療学部による2学部4学科と両学部の大学院を有する医科系総合大学
- 約5,200名の卒業生を輩出
- 建学の精神は「進取の精神と自由闊達な気風」と「医学・医療の攻究と地域医療への貢献」
- 医師派遣はもとより、文献情報提供サービスなど地域医療への支援は大学の責務

施設配置図



基礎医学研究棟の2～5階

2～4階 図書館部門

5階 情報システム部門

総合情報センターの設立までの歩み

- 昭和25年4月 旧女子医学専門学校校舎にて図書館業務開始
- 平成 2年 9月 大学将来構想検討委「21世紀に向けた札幌医科大学の課題」
（「従来の図書館の概念を越えた情報センター」が必要）
- 平成 8年 5月 情報センター整備準備室「情報センターの整備の基本方針」
（図書館と情報センターの統合を前提とした整備案）
- 平成9年10月 図書館システム開発開始（至る平成11年）
- 平成11年4月 附属情報センター設置（図書館、情報センターを当面併設）
- 平成11年6月 新基礎医学研究棟竣工、新図書館開館（システム本運用開始）
- 平成15年5月 拡大三役会議、評議会、統合検討委員会設置を決定
- 平成16年4月 統合検討委員会（教員組織）および事務連絡会議による検討開始
（当初計画は情報センター、図書館、写真室、標本館の4組織の
統合）
- 平成18年3月 附属情報センターおよび附属図書館の廃止
- 平成18年4月 附属総合情報センター設置

総合情報センターの目的と機能

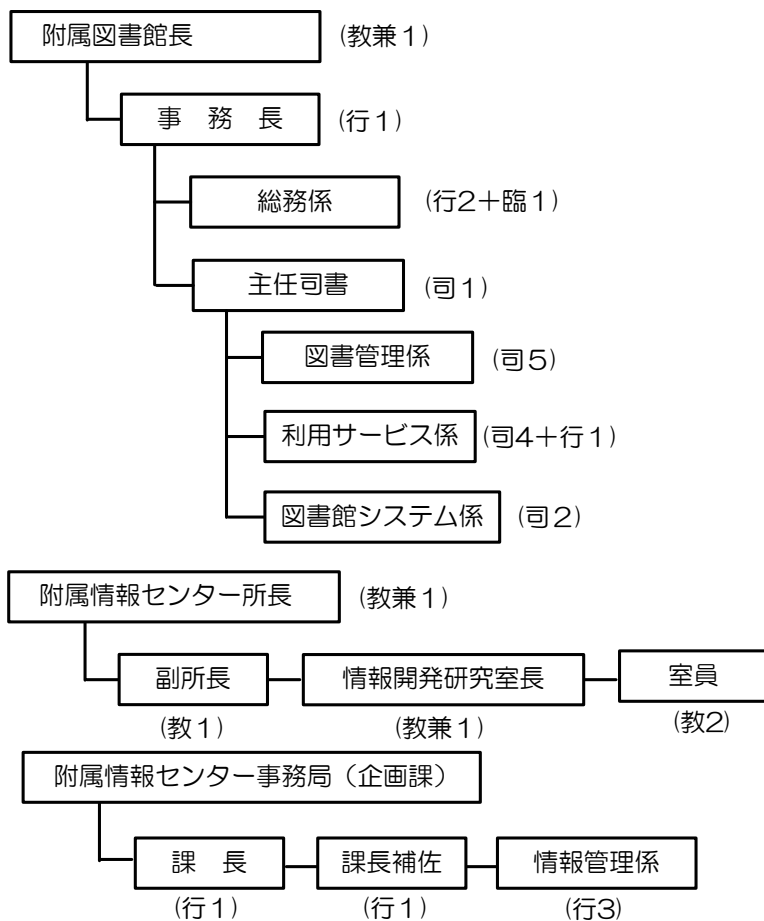
- 統合前において両組織は次の目的を共有しつつ、機能を分化

目的	図書館	情報センター
教育支援	学術情報コンテンツ提供体制の整備	各種支援システム、学内ネットワークなどのインフラ整備
研究支援	- 学術情報の一元的な提供	- 学内LAN “SAINS”
地域医療支援	- セルフサービス化 - サービスの均質化	- 教育用PC、Net Academy - GENETICS、SASほか
事務処理支援	-	- TV会議BizMate、Media Center - Groupware...ほか

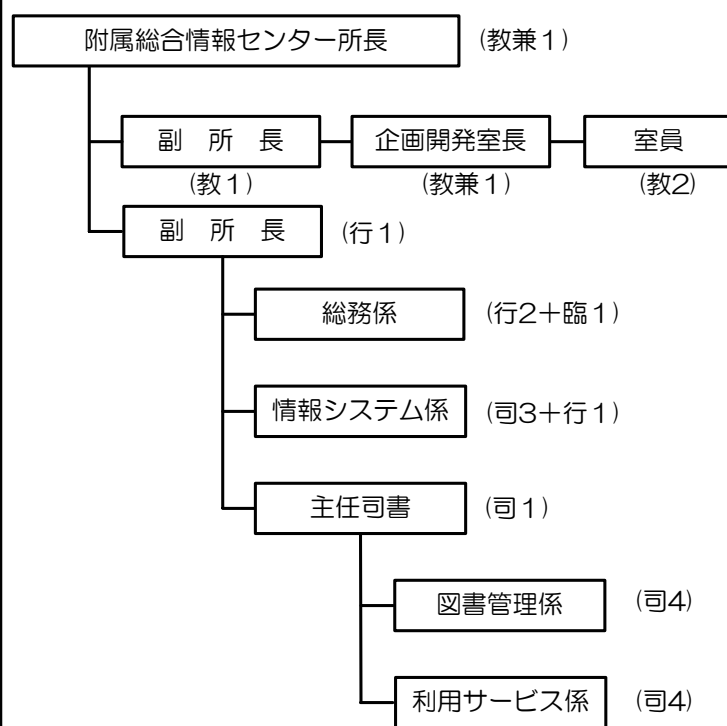
- 統合の3つの柱
 - e-Learningにおける教育支援
 - 医学・医療情報等の学内への提供における研究支援
 - 地域医療従事者への遠隔医療サービス・学術情報提供における地域医療支援

組織機構

旧組織機構（～H18.3）



現行組織機構（H18.4～）



現定数	教兼2	教3(欠2)	行4	司12	臨1
増減数	教員兼任	3 → 2			
	行政職	9 → 4			

図書館員としての統合化への期待

- 大学図書館を取り巻く環境変化に対する開拓者魂の必要性
 - 大学設置基準の大綱化（平成3年6月）
 - ライフライン（学術情報流通）のパラダイム・シフト
- 大学運営に対する積極的な参画の必要性
 - “学術雑誌の危機（Serials crisis）” への対応
 - 整備計画のオーソライズに必要な人的・組織的力量
- 新たなマーケット開拓に向けた発想と機動力の必要性
 - 利用者層の拡充に向けた基盤体制整備
 - 提供サービスの質的格差の是正に向けた新たな発想

不断の開拓者魂の必要性

(1) 電算化後発館としての図書館の挑戦

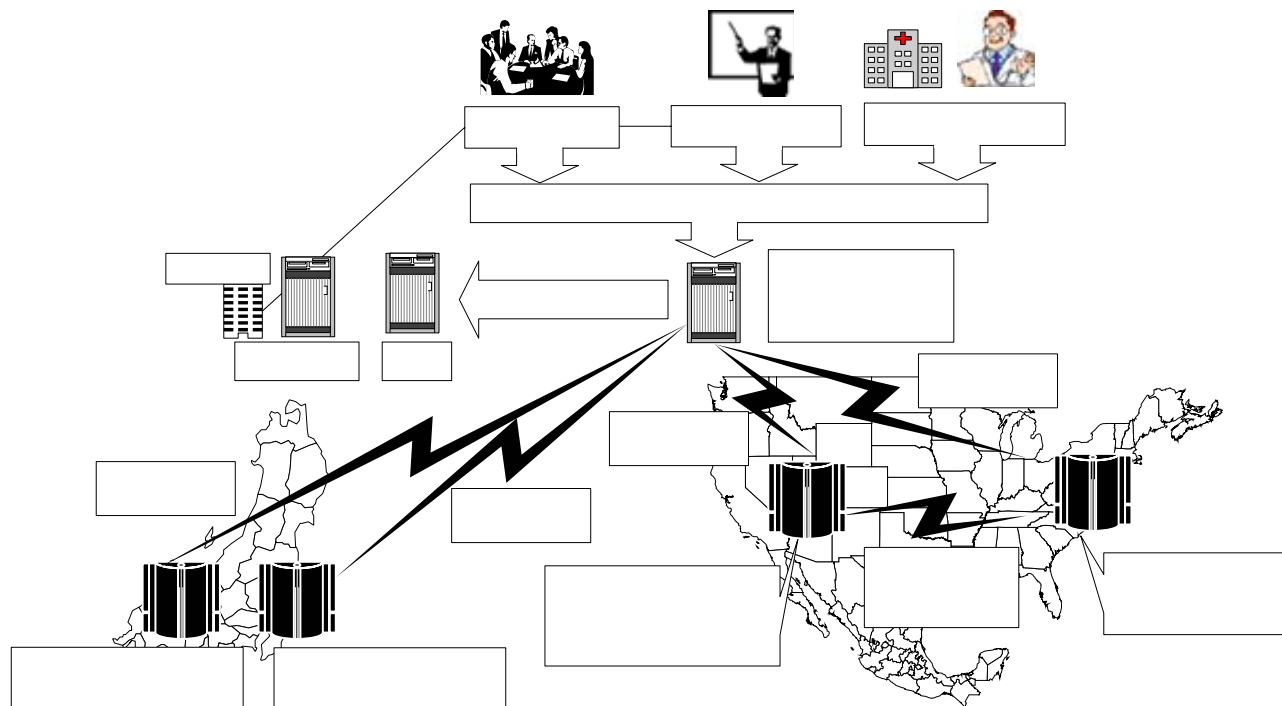
年 度	内 容
1991.3	「札幌医科大学情報センター基本計画書」策定
1993.8	「札幌医科大学図書館システム基本計画」策定
1996.4	遡及入力（全件）の開始（至1998）
1997.10	実施計画（至1999）。図書館システム（LIMDIO）開発 OPAC, OvidNet2, 医中誌CD-ROMネットワーク運用
1999.7	全面運用開始, OPAC/ILL/OvidNet2連携運用（国内初）
2001.5	医中誌Local Web Server（MEDOC-J）運用 OPAC/ILL/MEDOC-J連携運用（国内初）
2002.7	MetaLib/SFX運用開始（国内初） 地域医療機関発行誌電子化支援サービス開始
2002.12	PubMed/SFX運用開始（世界で9番目、アジア初）

不断の開拓者魂の必要性

(2) 図書館サービスの一元化と質的格差の是正

【 図書館システムの具体的な目標 】

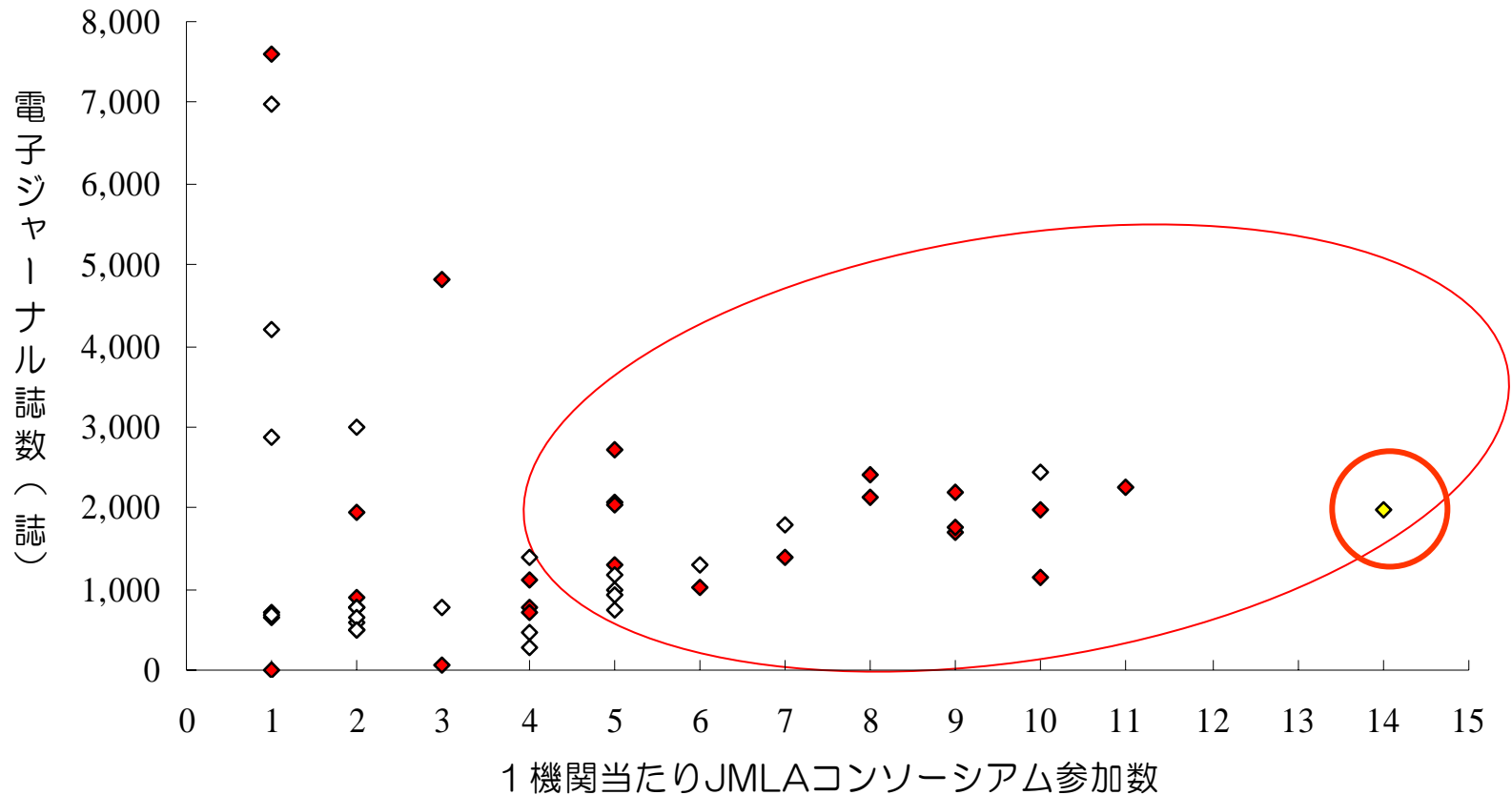
- 無人開館（夜間・土日・祝日24時）を想定した一元的なサービス提供
- 本学所属員と地域医療従事者とのサービス提供における質的格差の是正



大学運営への積極的な参画の必要性

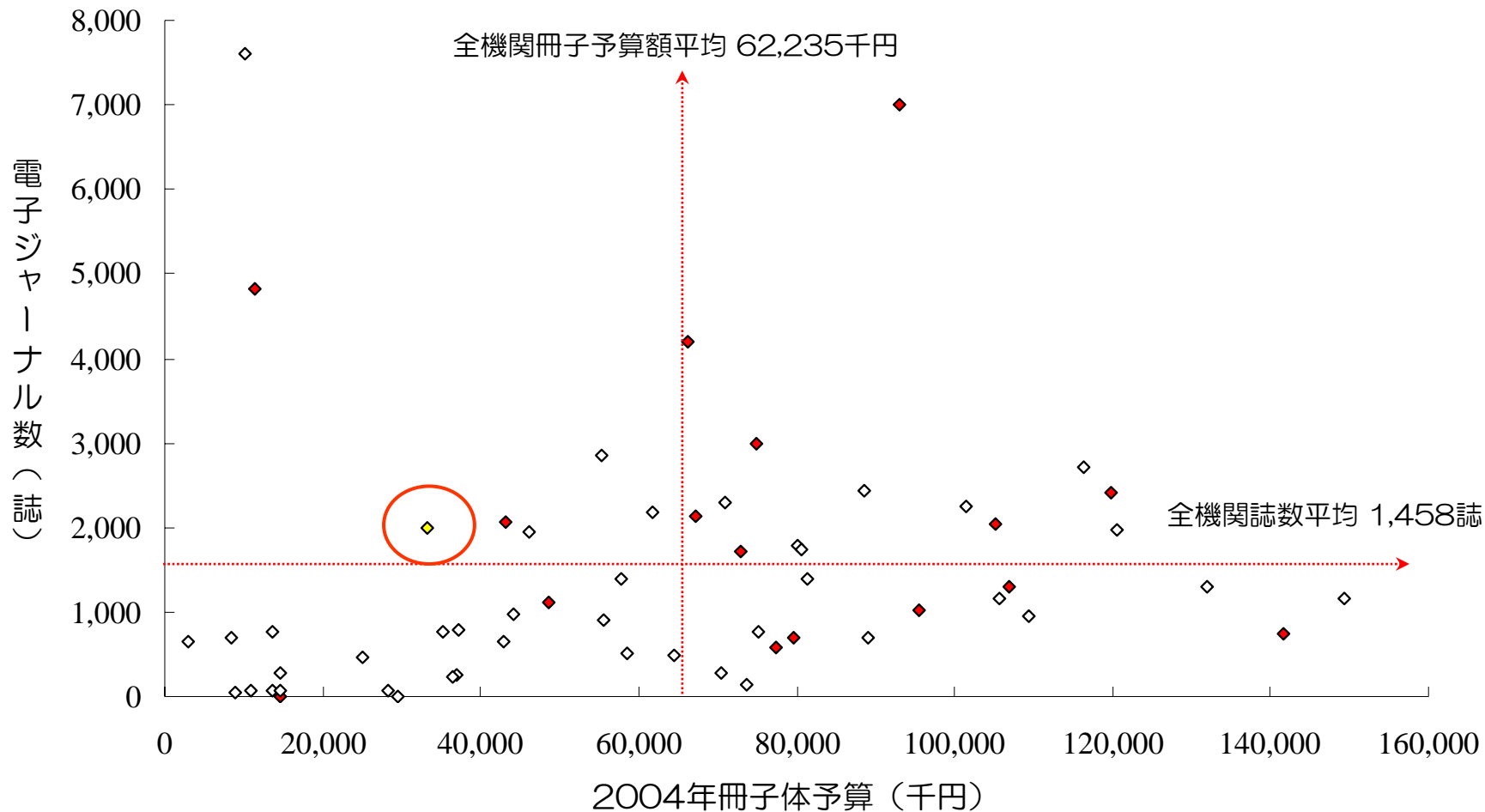
- 学術雑誌整備の危機的状況
 - 予算は10年来不変、国外学術雑誌の著しい減少
平成5年度 892誌 → 平成18年度 570誌（36%減）
- 打開策としての「国外学術雑誌冊子体1誌化事業」
 - 冊子体重複誌の排除と電子ジャーナルによる利便性の確保
（現在、コンソーシアム契約誌を主に約3,300誌）
 - 平成15～19年度の5年間の時限事業
 - 財源は既決（約40,000千円）＋講座負担金（10,000千円）
- 講座負担金への不満と新規購読誌の要望
- 次期整備計画策定におけるマンパワーの欠如

「国外学術雑誌冊子体1誌化事業」の効果 (1) JMLAコ参加機関の電子ジャーナル誌数



「国外学術雑誌冊子体1誌化事業」の効果

(2) 購読予算・電子ジャーナル誌数



マーケット開拓に向けた発想と機動力

(1) 新たなユーザーの獲得

【現在の利用状況】

- 北海道全市町村数の45%をカバー（右図）

80（31市47町2村）／180市町村

- 登録者数 1,797名
- アカウント所有者数 1,425名

（登録者数の79.3%）



【対応策】

- 旧来のHP、広報誌でのPRでは期待薄
- 医師派遣などの地域医療支援と歩調をあわせた広報活動が必要
- TV会議システムを使った講義への積極的参加（10月5日、第1回目を実施）



マーケット開拓に向けた発想と機動力

(2) 地域医療従事者の新たなニーズへの対応

- 現行提供サービス
 - 学術情報提供サービス
文献検索、複写文献提供、無償電子ジャーナルへのリンク
 - 医療機関等発行誌電子化支援サービス
- 電子媒体による原報提供要望の増大
- 未提供の理由（財政論）は不要
- 北海道地域コンソーシアム形成の検討に向けた論議が重要

統合のメリットと意義

■ メリット

- 類似業務の整理による事務の効率化

賃貸借契約、アカウント管理の効率化、利用者側の情報錯綜の回避

- 情報・ノウハウ共有による事業の円滑化

システム不適合の回避と障害発生時の迅速な対応が可能

■ 統合の意義

- 図書館職員の意識改革の点で衝撃的な効果

- 大学運営に係わる機会が飛躍的に増大

- 時代に即した図書館事業の見直しの機会を人的、組織的に得た

今後の課題

- 組織内、特に司書の人事については未解決
- 統合組織における事業の新規性
- 事業円滑化のための人材育成
 - 今後の学術雑誌整備の要となる電子ジャーナル整備事業の所轄先の見直し
 - 統合組織であっても図書館部門、情報システム部門おのおのの事業をまとめ上げられるキーパーソンの育成は不可欠

おわりに

- 統合は大学図書館において自らの置かれている環境の下に充分論議されるべき問題ではあるが、必然ではない。
- 大学図書館を取り巻く問題の解決の糸口はどこにあるのか？
- Lindberg, Donald A.B. ; Humphreys, Betsy L. 2015 —
The Future of Medical Libraries.
 “The future is in their hands”
New England Journal of Medicine. Vol. 352, No.11,
p.1067-1070(2005)